



平成29年12月「コラボデin黛スタジオvol.3」月雪花 舞台写真

ごあいさつ

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団
理事長 加戸 守行

昨年の政界は、国家の安全保障そっちのけで、モリ・カケ蕎麦の大食い競争に明け暮れ、お陰で私まで三回も国会で参考人としてカケ蕎麦を食させていただきました。寒い冬でしたが、平昌(ピョンチャン)冬季オリンピックでは、日本勢の金・銀・銅獲得に心温まる思いでした。

ところで、黛民族舞踊団は、昨年6月・7月「夏目漱石を踊る」「日本民俗芸能協会公演」の出演後、12月には黛 節子二十三回忌追福公演として、ピアノとのコラボによる「月雪花」公演を黛アート・サロンで開催し、翌1月にこの演目で「世界舞踊祭」に参加して、観客、識者からの好評を博しました。

当財団の頭痛の種だった一階のテナント転貸によるトラブルも、やっと昨年末に裁判所による和解の成立で解決を見るに至り、新テナントを確保すれば財政面での展望を開くことができると考えております。

舞踊団の大黒柱である黛 琉美さんが体調を崩され、財団運営の柱だった黛 莉香さんの引退と相まって厳しい前途が予想されますが、琉美さんと共に頑張ってきた舞踊団のみなさんと田中英機常務理事、川崎大輔事務局長の力量発揮に期待しています。

皆様方の変わらぬ御理解・御支援をお願いいたします。



藤間節子の時代

西形 節子 舞踊研究評論家
集団日本舞踊21会長

今年は黛節子女史生誕百年になるのでは……逝なくなられて二十数年の月日が流れても、多くの方々に黛節子の名前は、その業績と共に深く刻まれていると思う。

うっかり原稿を引き受けたものの、黛節子となられてからは、はるか仰ぎ見るスターに憧れる一ファンにすぎない私。只、今から七十年ほど前、同門の姉弟子だったという微かな手掛かりを頼りに、思い出の糸を手繰って見ることにしよう。

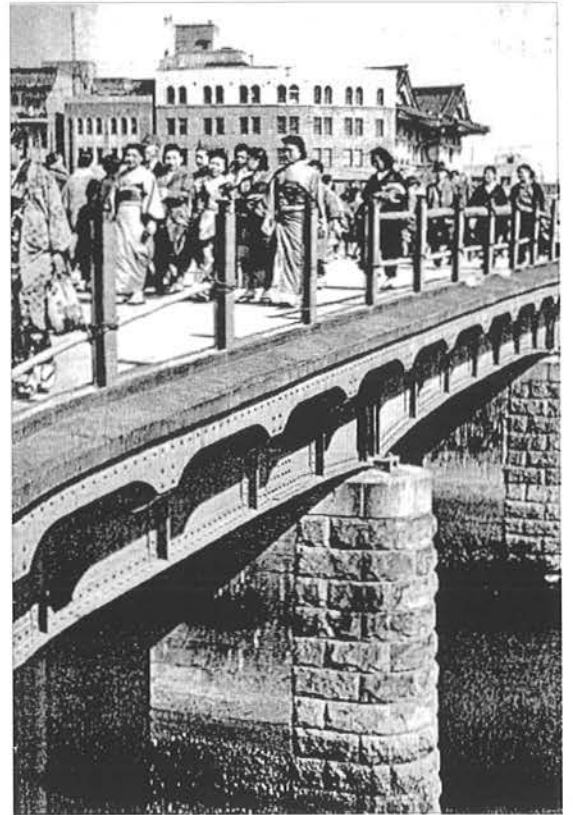
同門の師は藤間寿枝、明治・大正には踊りの名妓・瓢箪と謳われた後、藤間政弥（初代吾妻徳穂の母）と共に新橋の師匠として“東をどり”を創始。銀座・松坂屋（現・G6）の裏に稽古場があったので三十間堀の師匠とも呼ばれた。

三十間堀とは昭和通りと銀座通り（中央通り）の間にあった堀、敗戦後も水が流れ岸には洒落た小料理の店があったと記憶するが、焼け跡の瓦礫の処理で埋められ何時の間にかビル街となり跡形もなくなった。歌舞伎座から銀座四丁目に向かう道路がほんの少し盛り上がっている所がある。三十間堀に架けられた三原橋の跡、ここに僅かな名残をみるだけである。

閑話休題

戦時中、鎌倉に疎開していた寿枝師匠と巡り合ったのは、敗戦後間もない学徒動員から解放された十六歳の夏のこと。子供の頃は「おさらい会」でお目にかかるだけの大師匠、遠い存在だった寿枝師匠は、小柄な優しいおばあさんになられていた。

鎌倉から元の銀座に戻られたのは昭和二十三、四年頃、それまでは晩年の師匠の通い内弟子気取りで鍛えていただき、名取りにもなった。銀座に帰った師匠の稽古場は、古参の先輩方はもとより新劇・新派の著名な俳優や銀座のキャバレー「銀馬車」で歌っていた美少年丸山明宏（三輪明宏）など珍しい人たちで大賑わいだった。



三原橋の橋桁、戦災で失った欄干、後方に歌舞伎座の屋根が見える。

その頃、すでに藤間節子の創作舞踊活動は始まり、帝国劇場での『智恵子抄』や『赤いローソクと人魚』にしばれた一人だった。師匠が「うちの弟子に変わり者が二人いる。」と「それは節ちゃんと私なの」と故・林一枝（明治の三才媛の一人林きむ子の娘・林流家元）から伺った事を思い出した。少し年上の林一枝が三十間堀の師匠宅で初めてあったときの藤間節子は二十歳前後だという。昭和の初め未だ平和な時代と思われる。全盛期の師匠の名取、姉弟子は明治末から大正生れで、戦前から各地で稽古場を持つ錚錚たる方々ばかり、節子もその中の一人、若手の方だったのではなかろうか？

とすると、一九九六年『民族舞踊文化』追悼号の故 黛節子のプロフィールの芸歴の冒頭、次の部分が気に掛かる。

「芸歴 昭和二十一年、初代 花柳寿美に入門。のち、藤間流に移り藤間流家元 藤間勘齋（先々代松本幸四郎）より名取りを許され藤間節子となる。」

昭和二十一年の師匠は鎌倉住い、数人の弟子は地元の者ばかりだった。多くの先輩名取がおられると承知していたが、なかに気になる名前があった。

藤間節子ー 私自身、本名の節子にこだわり欲しかった名前だが、急遽、藤間堇（すみれ）と付けていただいたのは昭和二十三年のことだった。晩年の師匠から戦後初めての名取は私と記憶している。

当時すでに藤間節子の名は舞踊界に大きく鳴り響き、昭和二十三年には初代藤蔭静枝、初代五條珠美、初代西崎緑らとともに「創作舞踊家グループ」を組織して活躍している。厳しい稽古で有名な三十間堀の師匠の下で長いあいだ鍛えられた基盤があって、藤間節子の大輪の花が開いたのであろう。

この愛弟子の活躍に目を細めていた師匠の面影。老いても厳しい稽古の古風な師だが、新しいことへの束縛はしない自由人だった。

すべての人は、もうこの世にはいない。

（文中敬称略）



黛 節子「八木節」

黛 節子生誕百年 / 民族舞踊文化 No. 30 を記念し、西形節子先生の玉稿を賜りました。（編集部）

要法追忌三十回子節 黛



本財団創設者（初代理事長）黛 節子の二十三回忌追福法要を平成 29 年 10 月 16 日（命日）に菩提寺・西方寺（杉並区高円寺）で関係者集い相営みました。

黛 節子は生前日本各地に伝わる伝承芸能、民俗舞踊の現地取材と研究を重ね、日本の新しい民族舞踊の確立を目指しました。

昭和 31 年藤間節子の芸名を黛に改め黛民族舞踊団を設立、日本の民族舞踊団として活動の基盤を確立後、国内外において数多くの民族舞踊作品を発表し日本民族舞踊家の位置を揺るぎないものとししました。

思い出話の中で、来年平成 30 年 2 月 11 日は、黛 節子生誕 100 年の誕生日に当たることが話題となりました。大正 7 年（1918）生まれの節子、少女・青春期に、その日は「紀元節」と呼ばれ、日本国中に祝祭の国旗が立ちました。日本舞踊藤間流の名取から黛を名乗って日本の民族舞踊に心が傾斜していったのは、少女期の小さな魂の刺激と感動が、やがて大きく膨らんだものかもしれない。そんな話もありました。



参列者：黛莉香 黛琉美 黛真也 黛李穂
田中英機 川崎大輔 藤永周司

6月 新宿芸術家協会公演 the dance gathering Vol.21

夏目漱石を踊る ～現代のカオス 新宿より～

毎回、「多ジャンルの舞踊を一夜にして楽しめる」と多くの方に好評いただいている新宿芸術家協会公演。今年のテーマは生誕 150 年、新宿区にゆかりの深い文豪 夏目漱石でした。新宿芸術家協会のバレエ、モダンダンス（現代舞踊）、フラメンコ、鳳仙功舞踊（中国創作舞踊）・中国舞踊、ダンス・ネオ・シノワーズの舞踊家たちが参加いたしました。漱石の人・作品に焦点を当ててそれぞれの切り口で舞踊作品に仕立て上げました。これに漱石ゆかりの土地の民俗舞踊、また三味線による「吾輩は猫である」を彷彿とさせる将来を嘱望される若手の舞踊家による自由テ-



伊予万歳（四谷区民ホールにて）

舞民族舞踊団は漱石ゆかりの愛媛から祝福芸「伊予万歳」、熊本から甚句「おてもやん」を披露いたしました。

7 月 日本民俗芸能協会 創立 45 周年記念公演

日本民俗芸能協会は、日本舞踊・洋舞・邦楽などプロの芸術家と研究者を柱とし、民俗芸能愛好家も加わる集団で、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会の正会員団体です。

同じ日本人ながらそれぞれの専門分野として演ずる技法と異なった様ざまな身体表現と音表現の位相を見せる多様な民俗芸能の技法をその心と共に習得して保存と振興に資し、芸域を広げて新たな創造に役立てています。

45周年という大きな節目の折に声かけをいただきました。黛民族舞踊団は創作「傘踊り」を披露いたしました。鳥取県の民世・貝殻節元唄に合わせ、風と波の染み込んだ船頭の声と仕事の心意気を鳥取名物の華やかな傘に託して豊漁の喜びを踊りにしました。



主催：日本民俗芸能協会 埼玉県さいたま市大宮区高鼻町1-247-10(西角井正六方)
お問い合わせ：090-4915-2917 (新住清水様)

12月9・10日 自主公演 コラボデ黛 in 黛スタジオ vol.3 開催

演 題：月雪花～ピアノで踊る民俗詩～

企画・演出：黛 圭こと平出圭

構成・振付：黛 琉美

ゲストピアノ：河原 義

出 演：黛民族舞踊団

黛 真也 黛 李穂 黛 圭

伊藤みつ子 花柳翁麗

小山羊子 川口恵里奈

野村陽子 武田静子



ピアニスト：河原 義

協力出演：五月女 嬌花 五月女 若奈 五月女 華舟

スタッフ

照 明：小保内陽子（エクサート松崎） 衣 裳：的場花枝

舞台監督：八木清市・福田雅（ニケステージワークス） 記録撮影：田中文太郎

音響・制作：黛民族舞踊文化財団事務局

前回の“日本民族舞踊の流れ～大陸から大和へ～”ではモダンバレエとコラボレーションし、民族舞踊の歴史を紐解いてまいりました。今回で3回目となる「コラボデ黛 in 黛スタジオ」では“月雪花～ピアノと踊る民俗詩～”と題し、1700年頃西洋で生まれたピアノと日本の踊りの共演を致しました。また本公演では大地に生き自然を愛し敬う日本人の祈りの心を舞い、民謡にモダンな彩りを添えて観客を魅了した黛民族舞踊団創設者、黛 節子の二十三回忌追福公演でもございました。

ベートーヴェン作曲のピアノソナタ「月の光」から始まり、北陸・石川県の代表的踊り「山中節」、
「荒城の月」ではピアノ演奏とともに黛 李穂による鼓と踊りをご覧いただきました。宮沢賢治の
同名の詩を踊りにした「原体剣舞連」では天地の精霊たちの踊りを激しく表現し、続くピアノ演
奏「雪は踊っている」では雪の妖精が地表を白いビロードで覆う様子を静かに表現いたしました。

山形県鶴岡市で見た雪の情景を描き作曲された「雪の降るまちを」、青森県津軽地方の「津軽じょ
んがら節」、岩手県盛岡市の「南部荷方節」と地域ごとの雪景色を背景に踊りあげました。

ランゲ「花の歌」では雪解けに咲く健気な花の温かみを、東北・山形「花笠」では赤い花笠を
返しながら華やかかつ色彩豊かに踊りました。黛 節子がアレンジした「松島音頭」に続き、黛
琉美がアレンジした「郡上をどり」をご覧いただき、先代と当代のコラボレーションも見事に相
見えました。

「さくらさくら変奏曲」では桜が舞い散る中、情緒豊かな日本の心象世界を出演者全員で華やか
に踊り、幕を閉じました。月雪花をテーマに時代・国・文化を超えた共演が実現されたひと時でした。

事務局 藤永周司



山中節



荒城の月



朗読



原体剣舞連



雪の降る街を



津軽じょんがら節



南部荷方節



花笠



松島音頭



郡上をどり



さくらさくら変奏曲

平成30年 1月7日 2018年世界舞踊祭に出演

世界舞踊祭は国連やオリンピックにならい、世界 200 カ国のダンスを上演するボランティア運営（社会貢献事業）のフェスティバルです。

主催：運動記号研究会、世界舞踊祭実行委員会

出演民族舞踊団

- ・中国舞踊（鳳仙功舞踊研究所）
- ・マレーシア民族舞踊（日本マレーシア協会）
- ・タヒチ民族舞踊（ティアラ・ノ・タヒチ）
- ・ウクライナ民族舞踊（ヴェレスワ・ヴィクトリア）
- ・黛民族舞踊団 / ピアノ：河原 義

（黛 真也、黛 李穂、黛 圭、伊藤みつ子、小山羊子、川口恵里奈、武田静子、野村陽子）



荒城の月（鼓：黛 李穂）



荒城の月（ピアノ：河原 義）



津軽じょんがら節



さくらさくら変奏曲



山中節



花笠

平成30年度 黛民族舞踊団公演予定 (平成30年5月現在)

【自主公演】

12月15日(土) 予定

「コラボ黛 in 黛スタジオ vol.4」 キャラクターとのコラボレーション(仮テーマ)

会場：黛アート・サロン

詳細：企画検討中

【参加公演】

5月4日(金)～6日(日)

NOH! BASARA「平安絵巻」

当舞踊団は、第二部 義経地獄破りにて鬼を演じます。

会場：渋谷伝承ホール

時間：4日(金)19時 開演(※各30分前開場)

5日(土)14時/18時 開演

6日(日)13時/17時 開演

料金：前売4,000円・当日4,500円



6月23日(土)

新宿芸術家協会主催公演

The Dance Gathering vol.22「彩なす色を踊る」

当舞踊団は、ノンノコ節・長崎ぶらぶら節を予定しております。

会場：四谷区民ホール

時間：開場 17:30/ 開演 18:00

料金：[自由席]前売4,000円・当日4,500円/[予約指定席]5,500円

6月12日(火)

プッチーニのプロフィール プレゼンツ

オペラ「蝶々夫人」プロモーションコンサート

当舞踊団は、間奏曲で創作舞踊を披露いたします。

会場：牛込笹塚区民ホール

時間：開場 18:00/ 開演 18:30

料金：[全席自由席]前売4,000円・当日4,500円

12月2日(日)・5日(水)

プッチーニのプロフィール プレゼンツ

オペラ「蝶々夫人」

黛民族舞踊団は、間奏曲で舞いを披露いたします。

会場：12月2日浜松・5日東京 (詳細：調整中)



舞踊団員募集

現在 16 名程で舞踊活動を行っております。

この度、黨民族舞踊の継承に当り新団員を募集します。

年齢・性別・経験問わず舞踊に興味のある方、稽古見学・体験からご参加下さい。黨民族舞踊団には、30 以上の演目と舞台衣裳があります。

稽古を重ね、技術を磨き一緒に舞台に立ちませんか。

皆様からの応募をお待ちしております。

稽古場：黨アート・サロン(他赤坂見附駅近辺) 稽古日時：毎週月曜 19 時から 21 時
お問合せは、03-3583-3633 黨民族舞踊文化財団事務局までお願いします。

一般財団法人 黨民族舞踊文化財団のあらまし

一般財団法人黨民族文化財団は、わが国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和 61 年 3 月文部大臣から設立を許可された団体です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡回公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者(音楽、振付けを含む)、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創作活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および東南アジア諸国の民俗芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し(将来は資料館を設置して一般の利用に供することを計画しています)また、(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これらの舞踊団との交流や、東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的を御理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げる次第です。

つきましては、当財団には下記の通り賛助会員規程を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

黨民族舞踊文化財団賛助会員規程

一、 賛助会員とは、この法人の趣旨目的に賛同して入会くださった個人・法人(団体)の方々の名称です。

二、 会費寄付の内容は下記の通りです(但し、年間会費として扱わせていただきます。)

- | | | |
|----------|------------|-------|
| ア、 個人の場合 | 個人会員 | 五千元以上 |
| | 特別個人会員 | 十万元以上 |
| イ、 法人の場合 | 法人(団体)会員 | 十万元以上 |
| | 特別法人(団体)会員 | 百万元以上 |

三、 賛助会員の特典

ア、 特別会員(個人・法人)

- 1 年一回以上公演全の切符御一名様御招待
- 2 「財団の宴」など種々の行事に御招待

イ、 会員(個人・法人)

- 1 年一回以上公演全の切符御一名様御招待

なお、御入会くださいます方は、賛助会員会費寄付申込書に御記入の上、御返送いただきたく存じます。賛助会員会費寄付申込書は、当 財団宛てに、御請求くださいませ。領収書は、銀行にお振り込み下さいました後、お送り申し上げます。

【平成29年度 賛助会員(五十順敬称略)】

石上春江 奥山章雄 加戸守行 久住静代 田中英機 星野 紘

民族舞踊文化 No.30 2018 年 5 月 7 日発行 発行人 加戸守行 編集 黨民族舞踊文化財団事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂3丁目10番3号 黨ビル4階 MAYUZUMI BLD 4F,3-10-3,AKASAKA,MINATOKU,TOKYO

一般財団法人 黨民族舞踊文化財団 THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

TEL 03-3583-3633 FAX 03-35833639 ホームページ <http://www.mayuzumi.or.jp>